

活性化する
タイの
地域健康影響評価
CHIA



REVITALIZING THAILAND'S Community Health Impact Assessment



Somporn Pengkam [ソンポン ペンカン]
健康影響評価コーディネーティング ユニット
タイ・国家健康委員会事務局

■日本語版作成：熊本学園大学水俣学研究センター



Revitalizing Thailand's Community Health Impact Assessment

地域健康影響評価（以下CHIA：Community Health Impact Assessment）は、タイにおいてこれまで長い間実施されてきた。その手法は社会規範と信念を重視したものである。私達は相互のつながりを信じており、祖先の精神と自然に敬意を表している。私達は自然資源を、母なる大地、水神、米の神など、聖なる神としてとらえている。例えば、タイの東北部のある地域では、だれも決してけがしてはならないものであり、汚せば災害が起きるかもしれないという地域独自の伝統的な規範も持っている。これらの信念によって、コミュニティ（地域共同体）が活動を開始する時は常に、村人達は全ての人々が納得するまで協議をすることになる。議論の過程においては、村民達がそのコミュニティで行う政策決定に参加するよう招聘される。

タイは近代化への準備を整えて以来、コミュニティの社会規範と信念の価値を下げてきた。高度で複雑な科学/工業技術が地域の知恵に取って代わったのである。環境影響評価（EIA）は科学的な根拠を持って導入された。従って、コミュニティの精神的な信念は徐々に配慮されなくなる中で、それがコミュニティ内の対立（コンフリクト）へと進んでいくことになる。

2007年から現在まで、国家健康法の施行後、CHIAは健康的なコミュニティを目指す健康政策のためのツールとして新しい活力が与えられている。採鉱、産業、エネルギー、水管理といったプロジェクトや政策によって影響を受けている、或いは受ける可能性のある30以上のコミュニティがCHIAを実施している。その手順と手法は改良されている。その最初の一步はコミュニティの歴史、その発展、将来の検討である。彼らの構想と最終目的を引き出して彼らにとっての健康の意味と健康の決定要素を明確なものにする。彼らの健康に影響を及ぼす、或いは及ぼす可能性のあるプロジェクト或いは政策について研究をすること。データ収集に社会的及び科学的手法を用いること。コミュニティ内外、双方における社会的コミュニケーションを考案すること。大切なのは、全てのステップが公式的なものにとどまらず、持続的な非公式の学習プロセスとして計画される必要があるということである。

その大きなCHIAの取り組みは、地方そして国による公共政策の策定過程、特に決定段階において有意義なものである。

タイにおけるHIA(環境影響評価)の動き

国家健康法（仏暦2550年・西暦2007年）施行後のHIAの動向

ネットワーク・パートナーによって開発されたHIAの究極の目的は、タイ国民とタイ社会の福祉/幸福の向上を支えるためのツールとして活用されることである。それは、強制というよりむしろ義務だと考えられる。

2007

『HIAは2つの重要な法律のもとで施行された』

3月19日 — 国家健康法(2007年)の告示

・11条 個人或いは団体は、公共政策から生じる健康影響評価とその査定への参加を求める権利を擁する。個人或いは団体は個人の健康またはコミュニティの健康に影響を及ぼす可能性のあるプログラム或いは活動の許可や行使に先立って国家当局から情報、説明、基本的な根拠を得る権利を有し、そうした事柄についてそれぞれが意見を表明する権利を持つ。

・25条-5 国家健康委員会(NHC)は政策の策定と実施という両段階における国家健康制度並びに公共政策から生じる健康影響という点においてモニタリングと評定の規範と手順を規定する権限と義務を有する。

8月20日 — タイ国憲法(2007年)発令

・67条 第2項 当該の地域社会に対し、環境、天然資源および健康の質に関して、重大な影響を及ぼし得るプロジェクトまたは活動は、その実施に先じて、環境および人々の健康の質における影響が研究および評価され、且つ公衆及び利害関係者らに助言を求める為の公聴会が開催され、環境、天然資源或いは保健の分野の民間団体や、環境、天然資源或いは保健の分野における諸研究を実施する高等教育機関からの代表者から成る独立した組織によって見解が得られた場合を除き、許可されないものとす。

2008

『タイ社会におけるHIA制度と仕組みについて設計する』

国家健康委員会事務局(NHCO)は、公共政策から影響を受ける健康評価に用いる体制、仕組み(メカニズム)、規範と手法の起草を作業グループに指示した。その草稿は2008年、第一回国家健康総会の議員によって決議1:タイ社会におけるHIA制度と仕組みとして承認された。



『 NHCが最初のHIA規則と手法を告示し、 ONEP(天然資源・環境政策計画局)はEIAにおけるHIAガイドラインを発表した 』

1. NHCはWiput Phoolchareon(ウイプット・フォールチャレオン)博士をHIA委員会の議長に任命した。
2. NHCはNHCに付属する機関であり、HIA委員会事務局として機能するHIA調整ユニット(HIA Co-Unit)を設立した。
3. HIA Co-UnitはHIAの規則と手法を起草した。学術論文、諸外国から学んだ教訓の再考察、また作業パートナーとの会合や関係部門の公聴会が行われた。
4. 11月8日、国家健康委員会委員長として、首相がガイドラインとして政府機関やその他の部門によって使用される初めてのHIA規則と手法の声明に署名をした。HIA委員会は今後の向上のため、規則の再検討と改善、並びにNHCへの報告という任務を与えられた。
5. 12月29日、天然資源環境省は、コミュニティに多大な影響を及ぼす可能性のあるプロジェクトや活動に対するHIAガイドラインを発表した。こうしたガイドラインは、憲法67条と合致して、EIA(環境影響評価)報告を補完するものとなっている。
6. CHIAプロセスは進化した。
7. 2008年アジア太平洋地域健康影響評価会議が開催され、東南アジア諸国連合(以下、アセアン)地域におけるHIAメカニズムの開発が提案された。
8. “HIA:アセアン共同体のウェルビーイングの基盤”と題された公文書が社会的・文化的な柱の一つとして東南アジア諸国連合首脳会議で提案された。

『 HIAは広く実施された 』

- ・HIAはプロジェクトが認可されるために主にEHIA(環境・健康影響評価)として行われた。顕著な例としてマプタプットプロジェクトがある。
- ・CHIAは国中で奨励された。
- ・HIAは国家健康法(2007年) - 11条で述べられている評価を要求する権利に準じて、様々な地域での実施が勧められた。
- ・HIAはタイ-EU自由貿易協定での政策決定段階において使用された。
- ・健康開発における高級事務レベル会合は、各国がコーディネーターを任命し、またタイが構想開発のためのワークショップを開催することを義務付けることで、HIAアセアンネットワークの設立を支えた。
- ・HIA規則の評定では、以下の結果が出された → EHIAのプロセス、特にパブリック・スコーピングに関して問題がある。タイにおけるHIA人材が不足している。CHIA及び関連知識を構築する能力をコミュニティが求めている。HIAプロセス及び関連知識の研究と発展が必要である。

2010
2011

2012

タイHIAの“4つの柱”は次のように設定された:

1. **HIA 委員会**は… HIA 規則、手順、手法を進化させ、様々な部門/セクターがそうした規則に適合するよう働きかける重要な機構である。◆HIA 第2版を評定し、改善した。◆HPP(Healthy public policy:健康的な公共政策)の開発において、機関、特に地方行政機関がHIA を活用するよう奨励し、支援した。
同委員会は、政策決定の一環としてHIAの結果を提案するための、閣僚や関係局に直結可能なNHC下位の政策機構である。
2. **HIA コンソーシアム**は… 国内大学の研究者ネットワークとして、タイにおけるHIAに関する知識体系の研究と開発、全地域のHIA人材の構築や可能性に重要な機構である。◆大学院レベルのHIAカリキュラムを開発した ◆短期研修用のカリキュラムを開発した
同コンソーシアムは、コーンゲン大学、チェンマイ大学、ナレスワン大学、マヒドン大学、プリンスソングラ大学、ハットヤイキャンパスなど大学内HIA研究開発ユニットを開始した。◆HIA方法論開発のために、例えば、国際貿易協定、採鉱や農業による健康影響などのHIAのケーススタディをまとめた。
3. **地域のHIA ネットワーク**は… コミュニティのウェルビーイングにとって最も有益な発展を導く公共政策策定プロセスにおいて、コミュニティが共有、議論、交渉するために、HIAを実施し、情報を活用できるようにコミュニティに権限を持たせる重要な機構である。
同ネットワークはCHIAをケーススタディから学習空間・学ぶ場所へと向上させ、CHIAについての知識を総合的に扱った。◆「社会的及び自己決定への知的権限付与のためのCHIA」と題した第1回CHIA学会を開催した。
4. **アセアン(東南アジア諸国連合)におけるHIAネットワーク**は… 国境を越えた影響評価を支援するために、アセアン共同体におけるHIAについて共有し、学ぶのに重要な機構である。◆HIAに関するアセアンネットワーク(AFPHIA)、付託条項(TOR)と行動計画を共に設定した。◆地球温暖化による健康影響を研究するためにアセアンにおけるHIAのための技術ネットワークを立ち上げた。



なぜタイ国民はCHIAに関心を持つのか？

国家健康法が制定された2007年に遡り、HIAは健康についての権利と義務に関する条項において規定され、憲法を發布する際、HIAはコミュニティの権利についての条項に定められたが、HIAを知る人の数は少なく、多くの人はEIAに類似するものであると考えた。望まない開発プロジェクトを中止するためにHIAを活用したいと思う人もいた。

その頃、発電所、採鉱、工業、自由貿易協定など巨大プロジェクトはコミュニティに対して明らかにネガティブな(悪)影響を及ぼしていた。EIAに関するコミュニティ情報や懸念、専門家主導の政策決定の排除、作業過程における不適切な関与があり、EIAに対する拒否感が増大している。例えば、政策レベルでの開発においてなど、全ての種類の開発に対してEIAの実施が許可された訳ではない。EIAの報告結果はコミュニティの現実にしばしばそぐわないと判明している。これらの信頼しがたいEIAの報告に基づいて認可されたプロジェクトは、文化生態学には不適切であり、コミュニティの全ての面に影響を及ぼし、その結果、紛争へとつながっている。

HIAはタイにおいて影響評価システムを遂行するために開発されている。その意図は、政策、プロジェクト或いは諸活動から生じる可能性のある肯定的また否定的な影響を分析、予測するための社会的学習プロセスを創出することである。影響評価は、国民に健康をもたらす政策決定を支えるための、様々な適切なツールと一般参加型のプロセスとして活用することが可能である。

その結果、HIAは社会のツールであり、プロセスとして捉えられている。どんな公共政策が開発されようとも、健康及び健康における平等はその政策において不可欠な要素となるべきである。

国家健康法の目的を達成するため、国家健康委員会事務局はコミュニティが自らHIAを実施できる能力の構築をしている。コミュニティの人々が政策策定過程に参加する際、その人々の手による研究は役立つ。これが、いわゆるコミュニティを基盤とする健康影響評価、CHIAと呼ばれているものである。

2009年、国家健康委員会はHIAに関する規則と手順を発表した。それらに従って、HIAは以下の4つに分類される： 1) コミュニティに重大な影響を及ぼす可能性のあるプロジェクトや活動におけるHIA。これは2007年の憲法の67条と関連している。 2) 将来、コミュニティに重大な影響を及ぼす可能性のある公共政策や企画立案レベルでのHIA。 3) 2007年の国家健康法の11条に合致するHIA。 4) 社会の共同/共有学習プロセスとしてのHIA。

CHIAは、コミュニティにおいて相互学習を推進し、政策、プロジェクト、活動における意思決定への参加を支援するという上記の4番目に分類される。この取り組みは、結果としてコミュニティのウェルビーイングや健康における平等をもたらすことになるであろう。



タイ国内事情における CHIAプロセスと手順

CHIAはコミュニティの将来についての決定に焦点を置くコミュニティ発展のためのツールとして捉えられている。その強みは、HIAの適切なツールとプロセスでコミュニティ自らが立案することにある。人々はまた自らHIAも実施する。結果として、それぞれのコミュニティの背景、生活様式や文化によってツールやプロセスは異なる。

このプロセスはボトムアップ(下位から上位へ)式のヘルスプロモーションの実践を生み出している。そこでは、健康的な公共政策を展開し、コミュニティを強化し、良好な環境を創出することを通して、コミュニティは共同してそのプロセスを作り上げている。更に、この相互の学習プロセスは、思考様式、全人的(ホリスティック)な健康についての理論的枠組み、自己健康管理能力(技量)、自助/自立を調整することに役立っている。このプロセスは最終的に有病率、入院患者数、不必要な医療関連費を最小限に抑える結果となっている。この成果は総じてコミュニティに対する医療業務や公共医療が質量ともに向上することへと間接的につながっている。

●●●● 4つの作業ステップ

●**ステップ1 ツールを開発する** この段階は大変重要である。タイ国は人々が自身の健康を評価するプロセス(PATHプロセス)を適用している。それは「コミュニティの健康」の定義を明らかにし、人々のウェルビーイングについての将来ビジョンを決定し、あらゆる次元で健康の決定要因、特に社会的要因を明確にすることから始まる。その後、各決定要因の指標を進展させ、ツールを検証し、ガイドラインを開発する。この段階では、語りが必須の技術である。

●**ステップ2 コミュニティの健康を評価する** 来たる開発プロジェクトがコミュニティの健康の決定要因に変化を起こすかどうか、どのように変化を起こすのか、肯定的な影響と否定的な影響の観点から、コミュニティはそのプロジェクトを評価するために連帯して開発したツールを使用する。評価する中で、コミュニティの将来ビジョンは考慮される。どんな不確かな論点であってもそれを支持する更なる証拠を見いだす必要がある。重要なこととして、情報の正確性と適切性について、コミュニティ、関連機関や専門家が定期的に確認する必要がある。この段階において、多くのツールが活用されるが、中でも極めて重要とされるのは、生態系システム、生活様式、職業、資源(ハーブ、食料供給源、上流森林)といったコミュニティの可能性/能力についてのコミュニティ地図作成や綿密なデータ収集である。加えて、過去から現在に至る変化を見て、未来を予測するために予定表を作成することが欠かせない。その他有効なツールとして、質問表を用いた調査、徹底したインタビュー、フォーカスグループ、ケーススタディ、フィールドトリップ、他団体との情報交換等がある。

●**ステップ3 政策決定過程に関わる** CHIAから収集された情報は、異なるレベルの政策立案者や関連するセクター/部門で考慮されなければならない。これは、コミュニティ、地方行政、国の政府機関内での意思決定、また法定審問の手続きのためにもなりえる。その最終目的は、市民が自分のコミュニティに最適な開発プロジェクトの選択を可能にし、地域社会の対立を解消し、開発プロジェクトから今受けている影響、或いは受ける可能性のある影響を最小限にすることである。

●**ステップ4 監視と評価をする** 決定がなされた時点で、コミュニティは肯定的な変化と否定的な変化の両方を評価するため、その影響を追跡調査する。コミュニティのツールが用いられるのだが、ツールはその状況に応じて適切に調整される。

特筆すべきは、一般市民とのコミュニケーションが社会の学習プロセスを創り出す極めて重大な役目を果たすということである。この学習は、異なる見解でなく、情報、証拠、事実、正当な根拠に基づくべきである。社会的なコミュニケーションは、また、関係者の意思決定にも影響を及ぼす。

最大出力9.4メガワットのバイオマスパワープラント計画
〈チェンライ県、ウアンチャイ郡、ウィアンユア : Wiangneua〉

鉄鉱石採掘権の要求 (ラムパーン県、トゥーン郡、メートー村)
“マエ ソド : 鉄採掘から薬草の村へ”

鉄採掘への反対から、その村がどんな村になりたいのかという疑問へ。
CHIAが行われた後、その答えが判った。その地域は、滝と2つの洞窟があり、多様な保護薬草が育つメートー川流域である。そこで、コミュニティは、自分達の故郷を薬草とエコツーリズムのコミュニティにする選択をした。

ワンサプンの金採掘、チャンカーン・ウムン村の鉄鉱石採掘、
ルーイ県ナディンダム銅採掘権の要求 “人々と鉱山 : ルーイの未来”

ルーイがワンサプン・カウアルアンにて2006年に初めて採鉱が公式に認可されて以来、その地域で採掘は隆盛を極めてきた。その一方で、その鉱山周辺のコミュニティに暮らす人々の血液中にシアン化物、水銀、鉛が検出された。また、外部の研究者も「鉱山隊」がルーイを侵害している、つまり、チャンカーン・ウムン村での鉄鉱石採掘、ナディンダム・ファムアン村での銅採掘に押し寄せており、ワンサプン郡プーレックまで金採掘拡張が計画されていることを発見した。より大局的に見れば、ルーイには、国境貿易、農業、採掘、ツーリズムなど開発についていくつかの選択肢がある。ルーイの人々の課題とは、自分たちの故郷の未来をどのように考えるかということなのである。

ナコーンシータマラー県 シチョン タサラーの深海港と工業発展
“沿岸漁業/黄金の入江/世界の自己認定食品生産者”

開発プロジェクトに対するあらゆる形の反対が、CHIAの活用を導く結果となった。シチョン・タサラー村漁業ネットワークによって行われた調査によって、その地域が百種以上の魚の産卵場所であることを明らかになった。それは、就労源、コミュニティの収益となり、年平均3億9千100万バートを生む。そこは世界各地へ食物を輸出する金の入り江である。結果、人々はナコーンシータマラー食品生産者保護ネットワークとして団結し、郷土が世界全体のための食品生産地であり、自分達はその食品生産者であると自称した。

CHIA実践地域

試験的なCHIAの実践は2008年に始まった。このツールを活用する殆どのコミュニティは南部沿岸地域プロジェクトの対象地域であった。今日では、CHIAは以下のような様々な政策立案レベルで広く使われている。

- 採掘政策
- エネルギー政策 (バイオマスと石炭)
- 南部沿岸地域政策
- ツーリズム産業政策

ツーリズム開発プロジェクト
〈パンガ県、ヤオヤイ島
: Yoa Yai Island〉

ソクラー港 〈Songkhla〉

トゥンカイ工業団地
〈トゥラン県 : Trang〉

パクバラー港建設
〈サトゥーン県 : Satun〉

CHIA Practices

炭酸カリウム採掘権要求
〈ウドンタニ県：Udonthani〉

最大出力9.9と17メガワットのバイオマス発電プロジェクト並びに最大出力30メガワットのバイオマス発電プロジェクトの提案
〈スッリン県、プラサー・ムアン郡：Prasat & Muang〉

最大出力9.95、7、及び9メガワットのバイオマス発電プロジェクト
〈ロイエット県、ムアン郡、ニュームアン：Neua Muang〉

最大出力9メガワットのバイオマス発電プロジェクトの提案
〈ウボンラチャタニ県 サワンウィラウオン郡：Sawangweerawong〉

最大出力600メガワットの石炭発電所 〈チャチョエンサオ県 パノムサラカム郡 カウヒンソン：Khoa Hinsorn〉 “食物-石炭：農業地帯で異種交配する開発”

パノムサラカム - サナムチャイケット地域におけるエネルギーと農業開発政策では、最大出力600MWの石炭発電所がカウヒンソンの3,200 km²に広がる有機農業地域に出現すると発表した。その中には、マンゴー園、海外に輸出されている高品質のコメやフクロタケ栽培も含まれている。発電所は同じ水源から水を使用することになる。政策立案者が総合的な情報に基づいて確認し、決定できるように、コンサルタント会社がEHIAとともにCHIAを行うことを提案した初めてのプロジェクトである。このケースでは、コミュニティと政策立案者が一緒になって食物と石炭における開発の方向を設定する必要性があることを明らかにしている。

南部開発戦略

タイ - マレーシア間ガスパイプラインとガス分離施設計画 〈ソンカー県、チャナ郡：Chana〉 “チャナの人々の失われた力の復元”

国や世界に供給するエネルギーとは別に、ガス分離施設の周辺で暮らすチャナの人々はエネルギー産業が参入した後、コミュニティの変化に気付いた。宗教的価値より金銭を重んじる。コミュニティはばらばらになり、地域外の人々がどんどん押し寄せてきた。そのプロジェクトに反対して10年、人々は打ち勝つことができなかった。再三再四、不当な扱いを感じ、生活の選択も限られているように思えるのである。法制度とその機能に対する信頼は薄くなっている。こうした障害を越え、彼ら自身の自信を取り戻すためにCHIAは用いられる。CHIAは、個人の生活と経験を尊重する公共政策を発展させるということを究極の目標として、彼らの悲しみや苦痛を情報と知識に変えるために活用される。

ハラン食品工業団地 〈パッタニ県：Pattani〉

詳しくは…

www.nationalhealth.or.th
www.thia.in.th
www.hiainasean.org

タイのCHIAが始まったのは2008年の4月、国家健康委員会（HNC）が“CHIAガイドラインの開発”と題するワークショップを健康公共政策財団とコーン ケン大学・調査開発機関らと共同して主催した時である。14のコミュニティから関心を寄せた人々が参加し、その殆どが政府主導の南部沿岸域開発プランで言及されている工業開発対象地域のコミュニティからだった。その後、続いて2つの会議が催された。その際、8つのケース・スタディがそのコミュニティによって実践された。作業過程においては、異なる分野からの参加者間で、継続的な学習・共有フォーラムが行われ、最後には南部CHIAネットワークが設立された。HIA実践は総合的に扱われ、2009年末の国家健康会議開催中の検討課題となるよう提案された。NHCと閣僚は、南部沿岸地域開発プランをその地域の能力に適合させるためにその過程において関連する全ての部門を包含することで、そのプランの体系と実施方法を修正することを認めた。

2010年、CHIAは鉱物資源採掘政策によって影響を受ける地域で行われた。NHC、環境問題訴訟と支援活動（Environmental Litigation and Advocacy for the Wants: Enlaw）、市民社会プランニングネットワークは、採掘で影響を受けるコミュニティのための能力構築ワークショップを主催した。13地域からのコミュニティがそのワークショップに出席した。2つの地域で行われたCHIAは、中央政府レベルと地方行政レベル、



Lesson LEARNT

両レベルにおいて政策立案者の政策決定に明らかに影響を及ぼした。この時期には、さらに多くのコミュニティ、特に産業開発、石炭やガス発電施設などで影響を受けた人々がCHIAを実施するようになった。

2012年、CHIAはバイオマス発電所によって影響を受ける13の地域で行われた。これらの地域のうち4つのケースが完了している。このCHIAのプロセスは、結果としてバイオマス発電所に対する許可基準の再考察をもたらした。更に、国家健康会議の総会では、バイオマス発電所による健康影響の予防と削減についての政策案を考察する目的で、検討課題として盛り込まれた。

5年以上にわたってタイのCHIAは開発され、工業、採掘、エネルギーといった様々な政策分野、において30以上の地域で実践されてきた。CHIAには社会から高い関心と支持が寄せられている。昨年7月、“社会的及び自己による決定への知的エンパワーメントのためのCHIA”と題する初めてのCHIA学会が開催された時、300人から500人にも及ぶ予想以上の参加者が来場した。地域コミュニティ、国家機関、地方行政機関、民間セクター、NGO、コンサルタント、学者、学生、メディアなどあらゆる分野の人々であった。この会議では、タイにおいて実践されたCHIAから学んだ2つの大きな教訓が次のように反映された。

- ① CHIA はタイ社会に 4 つの恩恵をもたらした。1) 健康に関する公共政策を発展させるためのツール 2) 参加型民主主義の発展 3) 実践と開発を通してあらゆる部門/分野間の相互学習 4) 市民社会のエンパワーメントのためのツール の4つである。次の引用文からこの根拠が得られる。

「HIAプロセスから派生したコミュニティパワーとは、公共の場においてより多く現れるコミュニティの独自性である。そのプロセスにおいて、反対勢力が異なる考えに対して更に寛容になるとともに、新たに参加した人々はその作業を喜んで受け入れる。コミュニティはデータ収集における彼らの役割についてあまりよく理解していないが、共に立ち上がる地域一丸としての力を信じている… これまで私達は政策立案レベルであまり情報を流してこなかったが、今はメディア、学者、地方行政機関、環境地域事務局、消費者財団などと情報を共有している… しかし、今日、建設的な公共政策を達成するために今後の活動を考案するには財源が重要となるだろう。私達は世界の食糧資源の生産者、また保護者として立ち上がる。その道は遠くみえるかもしれないが、その始まりからここまで来ているのであるから、そこには到達できるだろう。残りは少し、ごく近い将来。私達は共に歩む…」 Pavinee Chaipak

パヴィニー・チャイパ、CHIA実践者、ソンカー県

「CHIAの重要な鍵となるのは、競争相手と争うことでなく、コミュニティにおける対立を解消するために、また少なくとも物理的な衝突を避けるためにも、知的なパワーを構築することである。私達のコミュニティは知的パワーとCHIAと呼ばれるツールを使うことを選択した。その始まりとして、シェブロン会社と石炭発電所と



の対立から私達を解放した。私達は食糧生産者であり、地域全体が世界の友人のための食糧保護に活用されていると認められる過程を構築した…」 Prasitchal Noonual

プラシッチャイ・ヌーヌアン、CHIA実践者、シチョン・タサラ、ナコーンシータマラ県

「2年のCHIAプロセスを通して、この作業がいわゆる“結論”でなく、その“手段”から派生する効果的な働きに焦点を合わせていることを学んでいる。それは、何かに気付き、自分達の故郷を愛し、大切にすると小グループで始まる。似通った考え、価値観を共有する友人らと共に作り上げられる。彼らは、その作業を補強する内部及び外部コミュニケーションを用いてコミュニティの真の可能性を共に学び、探求する。どんな些細なことでも、その結果の如何を問わず、コミュニティが立ち上がって問題に向き合うことへの自信を得るための支えとなり、カづけになるのである… 今日、その草稿はHIA委員会に提出されるが、これは終わりではない。むしろ、学んだことを共有するはじまりである。団結し、社会により大きな変革をもたらそうという個人一人一人からの声に期待している…」 Kobmanee Leutpichitkul

コブマニー・ルピシクン、CHIA 実践者、チャチェン サオ県

② CHIA を用いて、影響評価は4つの特徴的な指標全てにおいて、注意深く、徹底的に、且つ正しく行われる。

Community = C = Core Value: コミュニティの基本理念に重点を置く

Health= H = Holistic: 心身一体的(全人的)アプローチで健康を捉える

Impact= I = Integration: 健康影響のあらゆる面における関連性を理解する

Assessment= A = Apply: 影響を評価する際に異なる多様なツールを適用・応用する



タイCHIA 未来へのステップ Next Step

2009年、HIA委員会は「これから5年後のタイのHIAはどうあるべきか？」と題してワークショップを主催した。地域のコミュニティ、地方行政機関、国家機関、NGO、民間団体、様々な分野の研究者など、多種多様な部門からの参加が見られた。これによって、人々は

理想的な「HIA」像を見直した。手短かに言えば、HIAは強制というよりは、義務たるべきだということである。HIAは、地域コミュニティ、プロジェクト、プログラムから政策レベルに至る、公衆衛生における公共政策の全てのレベルにおいて一つの文化となるべきである。全ての利害関係者は相互信頼、理解、HIA利用権・所有権を共有するべきである。重点が置かれるべきは参加と学習作業である。最後に、HIAは、学際的な分野からの人々によって共有され、公衆衛生部門のみの責任でなく、社会的責任として認識されるべきである。

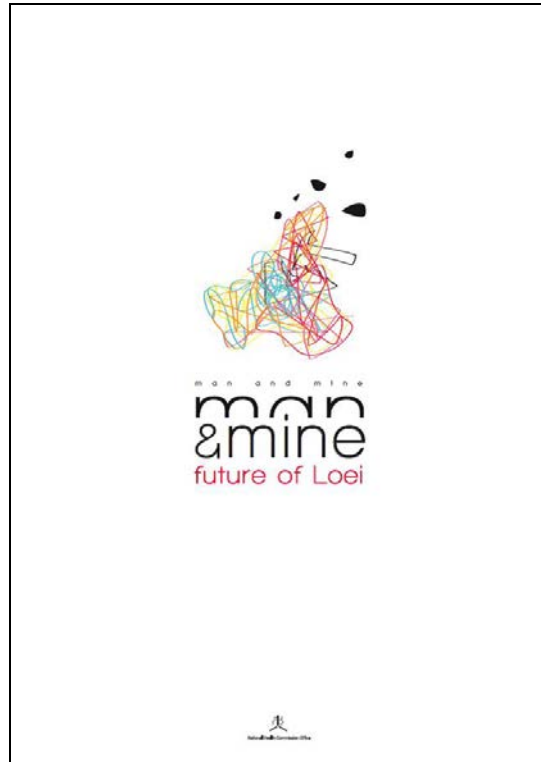
タイのHIAは4つの重要な柱から成っている。HIA委員会、HIAコンソーシアム、CHIAネットワーク及び東南アジア諸国連合におけるHIAネットワークである。作業過程を学び、共有することはこの4つの柱の中で規則正しく実践され、社会とのコミュニケーションは持続的に行われ、特に国家HIAフォーラムは毎年開催される。

今日では、様々な場所のコミュニティがCHIAについて学び、実践することを始めており、また自分達でCHIAを行うことの恩恵に気付いているコミュニティもある。こうしたコミュニティの数は増え続けている。今やHIAは専門家達の手から抜け出て、タイの人々はその所有権を自分達が持っていると感じ始めていると言える。HIAは公共政策過程における一つの文化となりつつある。

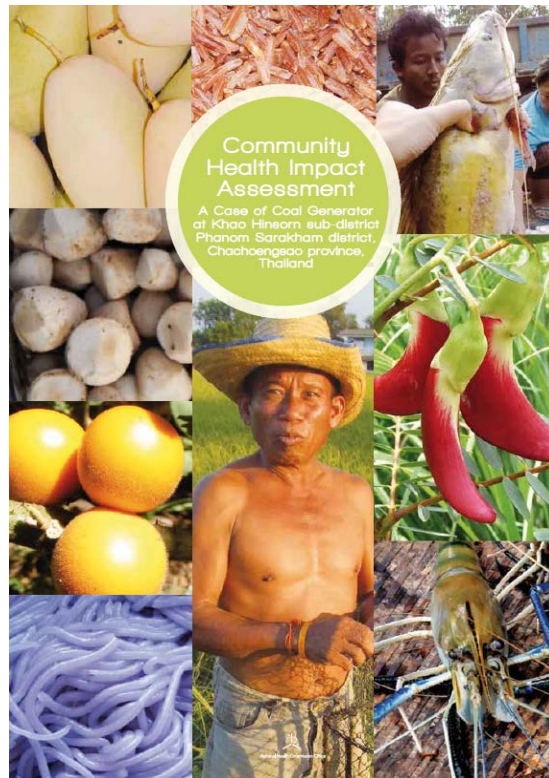
とはいえ、タイのHIAの一つの柱であり、力をつけてきているCHIAであるが、幾つかの課題に直面しており、克服すべき最も困難な課題がパラダイム転換である。それには、以下のようなことが含まれる。

- ① 健康パラダイム：タイ政府は、健康パラダイムをウェルビーイングという概念に変える努力を10年以上にわたり行ってきたが、多くの人々はまだ健康を病気といった側面でしか捉えられず、特に健康の社会的な決定要因(SDH)といったことへの理解はない。これは、特にHIAが政策決定レベルで提案される時には、結果として論争と論議をもたらしている。共通して求められているのは、HIAプロセスによって「病(課題)」に取り組み、可能な「治療(解決策)」が実施されることである。そこで、問題は、タイの人々が心身一体的(全人的)なアプローチで健康を考えることができるようにする過程をいかに作り出すかである。
- ② 影響評価：CHIAはタイのHIAシステムの一部であり、HIAは、EIA、SEA、SIA、都市計画評価、環境安全評価といった様々なツールから成るより大きな影響評価システムに帰属している。研究者や技術者、特に健康/保健部門外の人々のなかには、どのようにCHIAが有益であるのかわからないという人もいる。そこで、いかに、活動家やコミュニティ強化に携わる人々、そして学術的専門家や政策立案者の心を開かせ、各自の仕事にCHIAを適用してもらうか？
- ③ コミュニティの権利の保護：開発プロジェクトによって侵害されているコミュニティは、そのプロジェクトに反対するツールとしてHIAを使いたいと思っている。どのようにして、彼らがそれを越えて前進し、地域の環境保護文化に根差したコミュニティの未来を真に創造するツールとしてCHIAを使うことができるのか？

CHIAはいまだ初期段階である。よって更になされるべきことが山積みである。その動きを強化し、継続するために以下のことを含む重要な使命が3年の間に完遂されなければならない： 1) キーコンセプト(主要概念)、知識、CHIAのガイドラインと異なる分野での応用についての明確な理解の構築 2) 変化を生み出すための、質の観点から見た十分なクリティカル・マス(分岐点となる普及率)の創出 3) 様々な政策分野、例えば、都市計画、エネルギー政策、食糧安全保障、災害管理、国際貿易など、CHIAの具体的な適用の創出など



HIAの事例集 1 Man & mine: future of Loei



HIAの事例集 2 Community Health Impact Assessment A case of Generator at Khao Hinsorn sub-district, Phanom Sarakham district, Chachoengsao province, Thailand

発行 : National Health Commission Office, Thailand (2012)

この冊子について

この冊子『活性化するタイの地域健康影響評価』は、タイ国家健康委員会事務局の健康影響評価コーディネーティングユニット（Health Impact Assessment Coordinating Unit, National Health Commission Office, Thailand）が、2012年9月にカナダ・ケベックシティで開催された「健康影響評価に関する第12回国際会議（HIA2012）」に向けて英語版として作成した『Revitalizing Thailand's Community Health Impact Assessment』を日本語に翻訳したものです。

タイ国家健康委員会事務局は、2007年に施行された国家健康法（National Health Act）の推進組織として設置された組織です。水俣学研究センターが、2012年12月1日に開催した「健康影響評価に関する国際フォーラム」に、タイから招聘したアンポン・ジッタワンダ氏（Dr. Amphon Jindawatthana.）は、この組織の最高責任者（事務総長）であり、ソンポン・ペンカン氏（Ms. Somporn Pengkam）は、健康影響評価コーディネーティングユニットのリーダーです。

わが国において、「健康影響評価（ヘルスインプクトアセスメント）」は、2008年に産業医大の藤野善久氏らによって公衆衛生学雑誌において初めて紹介されたものの、保健・医療・福祉の分野においてもいまだなじみが薄く、活用事例も極めて限られているのが現状です。一方、タイにおいては、2007年憲法の67条第2項に、並びに、同時に施行された国家健康法の11条と25条において、「健康影響評価」の実施についての規定が明示されています。また、この冊子においても紹介されているように、環境/健康リスクおよびそれらに起因する影響評価を専門家（研究者やコンサル）の手に委ねるのではなく、当該地域住民の深い関与/参画による「地域健康影響評価」が、全国的に展開され成果を上げつつあります。

形骸化した「環境影響評価（環境アセスメント）」の問題点を明確にし、健康の社会的決定要因（Social determinants of health）の考え方に基づく政策・施策・事業の評価ツールとしての「健康影響評価」の意義と必要性を広く共有し、その法制化/制度化に向けた取り組みを進めることが、わが国においても求められているのではないかと考えます。

熊本学園大学水俣学研究センター
宮北 隆志

活性化するタイの地域健康影響評価

ソンポン・ペンカン 著

宮北 隆志 監訳

松田 加洋子 訳

2013年3月

発行：熊本学園大学水俣学研究センター

〒862-8680 熊本県熊本市中央区大江2-5-1

TEL：096-364-8913

FAX：096-364-5320

e-mail：minamata@kumagaku.ac.jp

HP：<http://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/index.html>

REVITALIZING THAILAND'S COMMUNITY HEALTH IMPACT
ASSESSMENT

by Somporn Pengkam, Health Impact Assessment Coordinating Unit,
National Health Commission Office, Thailand

2012

この冊子は、平成24年度文部科学省戦略的研究基盤形成支援事業、及び、平成24年度熊本学園大学学術研究助成の補助を受けて作成されました。